

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	鹿児島竜谷学園 NAMO・NAMOわこう		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ 訪問先は、同じ竜谷学園の子ども園が中心であり、訪問日程が組みやすい。	・ 保護者の希望を確認しながら、園の行事等を考慮し、綿密な訪問計画を立案するようにしている。	・ 対象の子どもへの急な欠席時の対応について、連絡体制を明確にしておく。
2	・ 訪問先は、同じ竜谷学園の子ども園が中心であり、担任と密な連携を取ることができる。	・ 訪問時に、子どもの課題を確認し、参観等の観点を明確にしておく。	・ 訪問を終えた後、担任との情報交換の場を設け、今後の課題を明確にする。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ 訪問支援員が施設長と児童発達支援管理責任者になっており、スケジュール調整が難しい。	・ 1か月ごとの訪問計画を事業所内と対象園の行事等を十分考慮しながら立案している。	・ 訪問体制の確立と訪問支援員の計画的な人材養成を進める。
2	・ 周辺の保育園、こども園等、地域の子どものニーズに応えることができていない。	・ 児童発達支援事業所に通う子どもたちが竜谷学園の子どもに限られている。	・ 地域全体に貢献できるような訪問体制の確立をめざす必要がある。児童発達支援事業所の利用者の対象を広げる。
3			